

にほんじき
日本磁器のふるさと

三川内山 みかわちやま ガイドマップ



ならやま人物伝

巨関

豊臣秀吉の朝鮮の役で武将松浦鎮信が呼び寄せた陶工です。中野村現在の平戸市山中町紙漣に窯を開きました。平戸藩の御用窯創業に深く関与しましたが、他にも肥前地区全体に足跡を残しています。多くが謎とされていますが、もしかすると日本磁器の創成を任された人物だったのかもかもしれません。



如猿(今村弥次兵衛)

三之丞の子で、天草陶石の発見と白磁焼成を完成させました。さらに徳川將軍家の献上品づくりを命じられ、また禁裏天皇を呼んだ尊称に奉獻した事から、1702年平戸藩主より称号如猿を賜います。この多大な功績と名譽は、後に祭神として陶祖神社に祀られ、5月1日の「はません祭り」に祝詞があげられています。容貌が猿に似ていたため豊臣秀吉の再来とまで言われ、お土産「舌出し人形」として人気を得ています。



三猿(中里巳午太)

三川内焼屈指の名工と呼ばれます。1911年伯耆松浦藩より称号三猿を賜います。廃藩のため明治に民窯となり技法が衰退していく中、三川内焼中興の祖である豊島政治が設立した陶磁器意匠伝習所の教師としても多くの後進を育てました。ここで各工の証である猿の称号には、素猿・清猿・表猿・化猿などがいました。



掠尾(笠)

アニメ創成期の中心人物で三川内山出身で、父は三川内焼の名工。アニメ美術監督として、多くの作品を手がけました。高畑勲や宮崎駿に協力した母をたずねて三千里「は光と影を背景に織り込んだ代表作となっています。」「セロ弾きのゴーシュ」は水墨画的な陰影と質感を表しました。他にも多くの作品に参画しましたが、故郷三川内山の小川や野山の風景をイメージしたたのも背景に描かれています。



ならやま四方山話

消えた巨関のお墓

巨関は、寛永二十年(1643)に鍋島藩領の武雄黒髪山で死去し葬られました。明治に入り、今村家が黒髪山西光靈寺にある巨関の墓を確認し、三川内山へと移したと記録がありますが、その場所がどこなのか今も謎に包まれています。

多すぎる神社の謎

三川内山には10社もの神社があります。小さな里山になぜこれだけの数の神社があるのでしょうか。豊臣秀吉の朝鮮の役で、日本へ連れて来られた陶工が朝鮮において信仰していた神々に似た日本の神々を、各家々で祀ったので多くの神社が建てられました。

枯れたサンバラケの松

三川内焼の陶祖如猿の父が手植えたと伝わるこの松は、三川内の霊木でしたが昭和40年代に三川内焼が有田焼として流通すると枯れてしまったといま

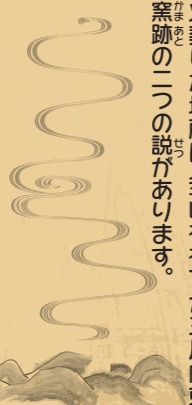


高麗壺の遺言

三川内焼の陶祖の一人である高麗壺は女性の朝鮮人陶工です。106歳まで生き、多くの陶工を育てました。死の間際「私を火葬したとき煙が昇れば朝鮮に帰り、地を這えばこの地に留まるように」という遺言を残しました。煙は地を這い、この地に祀られ、釜山神社として今に伝わっています。

まおし三番叟

江戸時代、働いた陶工であった今村弥次兵衛が平戸藩主より「如猿」の名を賜りましたが、色黒で猿に似ていたという理由に心治まらず、猿を以って三番叟を躍らせ、へらと舌を出す人形を作り藩主へ献上していたといわれています。しかし、その細工の面白さが、藩主はもとより侍やオランダ商人たちの間で評判となり、後に大量に輸出されることになりました。1867年のパリ万博では、なんとナポレオンの皇后までが、「舌出し三番叟」を買い求めたそうです。



三之丞(今村三之丞)

父巨関の命令を受け、陶技の研究と白磁鉢を探しに各地を修行しながら情報収集をしました。磁器焼成が可能となり、1637年、藩主の命令により棟梁で御用窯の代官となります。三川内焼創業期の苦勞人で、その使命感は子の弥次兵衛に引き継がれ、この後



高麗壺(中里巳)

巨関と共に磁器を進めるため浪来、椎の峰(現在の伊万里市南波多町)に移ります。そこで、窯を開いていた中里茂右衛門と結婚し、御用窯の開業のために長業山(三川内山)へ移ります。陶工たちの信望は厚く、御用窯のリーダー格であり、伝説中の女傑として釜山神社に祀られています。



松浦家お殿様が案内します！ 三川内山探険

みかわちやま たんけん

まつうら せいざん
[松浦 静山 (1760-1841)]
平戸藩松浦家の第9代藩主、
1779年に血山代官宅を訪問。
随筆集「甲子夜話」の著者で
江戸時代の武家や民衆の暮らし・
風俗を知る資料となっています。

九州でも2ヶ所しかない石の一枚板でアーチが作られた珍しい橋じゃ
石のたいこ橋

三川内焼陶祖のひとり、高麗姿をまつった神社じゃ
十穴善神

三川内山を一望できる場所じゃ
展望所

三川内にかかすことのできない有名な方々のお墓があるところじゃ
高麗姫の墓

三川内焼陶祖のひとり、如猿をまつった神社じゃ
陶祖神社

戦国時代にはいくさへ行くための軍事道路としても使われたとても古い道なんじゃ
波佐見古道

長さ120m!! 三川内山No.1の大きさは今でも窯跡の一部が見れるんじゃぞ
東登窯跡

大正時代から昭和に繁栄した陽山窯じゃ今も当時の状態が見れる貴重な建物じゃぞ
トンバイ堀

馬の足がすべらないようにと小さな段をつけたのじゃ
小谷墓地

唯一全景が残る窯跡の跡じゃ
今由製陶所窯跡

大正時代につくられた小森川水系で唯一の石橋なんじゃ!!
石橋

焼物職人を育てる養成所だったんじゃ
窯業伝習所跡

その昔、ココをお参りしたところかさ(オデキ)が治ったことから「かさやくさん」と呼ばれるようになったそうじゃ
かさやくさん

明治15年に建てられたもので、もともとは旅館(旅館)だったのじゃ
血山代官所跡

33体のお地藏様
かざやくさん

俳句の神様、松尾芭蕉を称える石碑じゃ江戸時代の三川内の人々は俳句が好きだったんじゃの
芭蕉句牌

長男しか家を継ぐことができなかった時代、家元の二男や三男が藩にお願ひして開かれた窯なんじゃ
新窯跡(下窯跡)

美を目指す三川内焼 (別名平戸焼)

四百年前、九州の武将たちは作陶の進む朝鮮の陶工たちを招いた。
平戸藩は巨関や高麗姫を支援し、景徳鎮を目標に御用窯を組織した。さらに「日本の美」を取り入れながら、さらなる発展をする。
江戸期には朝廷や將軍家に献上、明治期以降は輸出品や贈答品で名声を博した。
その育まれた芸術的良心こそ、産地三川内山の誇りである。

極めた技

- ・ 輝く白さ(天草の陶石)
- ・ 藍色白色の対照(呉須絵)
- ・ 固さ軽さ(焼成)
- ・ 薄さ(薄胎)
- ・ 細い線描き(日本画)
- ・ 浮上げ・透彫・手捻り

早岐の港からこの道を通って陶石を運び込んでいたんじゃよ
早岐古道

焼物職人を育てる養成所だったんじゃ
窯業伝習所跡

松浦家のお殿様が案内します!!
殿!

長男しか家を継ぐことができなかった時代、家元の二男や三男が藩にお願ひして開かれた窯なんじゃ
新窯跡(下窯跡)

三川内山

国道へ